

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふるさと
(ユニット名)	ふる里
所在地 (県・市町村名)	宮城県 蔵王町
記入者名 (管理者)	芦立 琢磨
記入日	平成 20年 7月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	今後も話し合いの場を設け、意見交換を通し理念について話し合をしていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	併設施設とのスタッフの移動により、全員が理念の共有、実践への取り組みがなされていないと思われる。日常の業務時や申し送り等を通じ、全員が理念を基に日々の実践に取り組める様にしていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で行なわれる行事等に状況を見て参加、協力を行なう様に努めています。又、蔵王町で立ち上げている高齢者虐待防止運営委員会にホーム長が委嘱され、活動に参加している。	○	高齢者の精神的理解を高めていただく為の、話し合いの場等の機会を作れるようにしていきたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価後に改善すべき物には一つ一つ出来る物から取り組んでいます。外部評価の実施によりスタッフの意識も高くなっている。	○	始めるまでに時間がかかってしまう事もあるが、スタッフ全員で取り組む様にしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	立ち上げたばかりだが、今までのサービス等についての報告や意見交換、報告を行いました。	○	今後も報告や話し合い、意見交換を通し、全体の質の向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の地域ケア研修に参加時や電話にて保健福祉課、包括支援センター、社協等と連絡や情報交換を行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり資料を見たりし、必要な方があれば活用出来る様に努めています。19年度にホーム長、管理者共に社会福祉主事の資格を修得している。	○	大泉会全体での研修会にて権利擁護について行っている。来年度についても行う予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり資料を見たりし、虐待が見過ごされる事がないように努めています。ホーム長は町の高齢者虐待防止運営委員会に委嘱されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には御家族の方と共に利用される方にも説明をして、質問等の対応も行なっています。又、解約についてや、解約後についての相談、支援等を行っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者との話の中から意見や希望、不満を聞くように心がけています。その様な話が聞けた時には申し送り等にて話し合い対応を行なう様に努めています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族が来訪した時には近況の状況の話を行なう様にしています。又、その都度、電話にて状況報告や連絡を行なっています。金銭管理についても来訪時に預かり書を見ていただいたり、請求書を送付する際に同封して御渡ししています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時等に話を行ない、意見や不満、苦情等について聞く様に努めています。又、他機関にても相談や苦情等を受け付けている事について説明をしています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や毎日の申し送り、日常の会話の中で意見提案、情報交換を行なう様に努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>急な勤務交代や要望があったとしても、スタッフの協力を得て確保する様に努めています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの移動がある場合には利用者の方に、移動する本人よりあいさつを行なってもらったり、日常の話の中で説明を行なう様に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会や外部の研修会等へ参加し、知識を学ぶ様に努めています。研修後には報告や持ち帰った資料等を見る様にしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連協での研修会や施設見学会に参加し、他GH等とのネットワーク作りを行い、サービスの質の向上に取り組む様に努めています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成に当たり、希望休日を聞いたり、併設施設スタッフと一緒に歓送迎会やスポーツ大会に参加し、ストレス軽減に努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフが資格や自分で種々の研修会等に参加したい場合、有休等を配慮して勤務表を作成している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での対応や、利用申込みの際に御本人、御家族の困っている事や不安な事について話をよく聴く様に努めています。	○ 子供がいないため、姪っ子様にお世話になっている方で、6月9日に公証役場が入り、今後についての取り決めを行った。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時や利用申込み時、実調等の時にはよく話を行ない、どの様に対応していれば良いかについて話を行なう様にしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、御本人、御家族等がどの様な考えでいるのかを聞き、保健福祉課や地域包括支援センター等へ連絡、相談を行ない、どの様な対応を行なっていけばよいかを話をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはGHへ何度か来ていただき他利用者の方達と話をさせていただいたり、様子を見ていただいています。又、御本人、御家族、GH側と話をしない、出来る限り御本人が納得されたうえで入居していただく様にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のあいさつ、利用者の方が一緒に行なってくれたり、手伝ってくれた時には「ありがとうございます」とお礼を述べています。その事により自信を持っていただける様に努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは利用者のその時の状況に合わせてお互いに刺激し合いながらも一人一人の性格を見極め、学んだり、支え合う関係作りに努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常の会話の中に御家族への不満等を話す事があるが、御家族の考え等も理解してもらえる様な会話や話掛けに努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や馴染みの方に電話、手紙を行なう様に声掛けやお手伝いを行い関係が継続されるように努めています。	○	いつでも気軽に面会や来所が出来る様に居室にコーヒーやお茶、食事なども一緒に出来る様に運膳を行っています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	野菜の下ごしらえ等は、一人にだけ頼むのではなく複数の利用者と一緒にこなしてもらっています。食後「みんなで」を強調し、テーブルを拭くのに、布巾を回して拭いて頂いてもらっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、継続的な関わりを必要とする方には関係を保つ様に努めています。(利用者のみだけでなく、御家族も含め)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりや話の中より思いや希望を聞き、それを御家族の方が来訪した時等に話を行なう様にしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との関わりや話の中、御家族からの話し、実態調査表等の書類より、今までの暮らし方を基にGHでの生活に役立てられる様にしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の言動、行動、バイタルチェック等に気を配り、現状を総合的に把握する様にしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る事、出来ない事を基に、本人の希望や行ないたい事をお聞きし、話の中から参考にして、スタッフ間で話し合い、作成する様に努めています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の方には時期を見て、御家族の方には来訪時に話を行ない経過や評価に基づき見直しを行い、新たな計画を作成したり、又、退院後等には以前と違う状態にて戻って来た時には、現状に即した計画を作成する様に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録を記入してケアの実践、結果や気づきについてスタッフ間で話し合い、介護計画に活かす様に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な通院時の搬送や入院時に御家族が来られるまでの付き添い等を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方が様子を見に来てくれたり、地域に方々の協力のもとに民謡会やお祭り等に参加させていただいています。出入りしている八百屋さんが花植えを行ってくれる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや併設施設の相談員、ケアマネとも情報交換を行っております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GHを利用している方、される様な方についての情報交換を行っております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族等の希望を大切に、かかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられる様に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	御本人の希望する病院へ行く時には、御家族と相談し受診してもらおう様になっています。又、専門医については仙南中央病院への相談、診断を紹介しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護スタッフや協力病院の看護師の方に医療活用について等、相談にのっていただいています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者のケア上のポイント等を申し送り書に記入して情報提供を行なっています。退院計画については、御本人、御家族、医師、GHで相談の上、早期に退院出来る様に努めています。	○	大泉記念病院会長であり社会福祉法人大泉会の理事長・高橋先生と大泉記念病院院長・松本先生が毎週1回ずつ、来所してくれて利用者の健康状態等を診てくれます。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御家族の来訪時に近況の状態を伝え、どの様な時に、どの様な対応をとればよいのかを話し合っています。又、ドクター来所時にも情報交換や相談にのっていただいています。	○	御家族が遠くの方もおり、万が一の時にはどの様な手順で、家族が迎えにくるまでの事などについて話し合いを行い、文書化していく予定にしています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期を迎えたとしても、より良く暮らせる様に、その都度御本人、御家族、ドクター、GHが話し合いを行い方向性を決めるように努めています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用される方、御家族等、入居前には何度かホームの方へ来ていただき、出来る限り納得して入居していただく様に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必ず名前を呼ぶ時には「さん」をつけています。家族の希望により、「ちゃん」をつけ呼んでいる方が1人います。その時に応じトーンに気を配っています。個人の記録についても、所定の場所に置く様に決めております。個人情報保護の取扱いについての資料も、いつでも閲覧出来る様に職員室に置いてあります。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方々に決定していただける様に分かりやすく説明を行ったり、声掛け行なう様に努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方が生きがいを感じられる様な働きかけを行い、一人一人に合った生活をむかえかれる様に努めています。	○ 利用者の方が主体だという事の初心を忘れない為の話合いをもてるようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着衣を選んでいただいたり、クンを手渡し髪を整えていただいたりとその方が出来る事を行なってもらっています。月一回美容師がカットに来てくれて、その方に切ってもらう方、御家族の方が付き添い店に出かける方とそれぞれおります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に準備や食事、後片付けを行なっています。食事は音楽を聴きながらやおしゃべりをしてゆっくと本人のペースで食べて頂いています。テーブルごとにスタッフも一緒に食べています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	血圧の高い利用者の方の味噌汁は、本人にさしつかけの無い位に薄めて摂取していただいたり、刻み等にしたりと工夫を行なっています。また、利用者の方の希望により、器におかずを全部のせて食べる方もいます。	○ 水分補給等を兼ねて、お預かりしているジュースやお菓子を希望により量を考えて、出している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄へのサインやパターンを見つけ、トイレへの声掛け、誘導、交換等一人一人に合わせた支援を行う様に努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めて行っています。入浴前にはバイタルチェックを行い身体状況を見て、声掛けを行い本人に決めていただいています。その方に合わせスタッフ2名介助で入浴される方もおります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の状況に応じた休息の時間帯を設けたり、夜間時の安眠が取れる様に、日中の活動を行なっていただくように努めています。不眠の訴えがある時には、ドクターに相談する様にもしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望や出来る事については行なっていただき、その方に合った役割や楽しみ事を行なっていただける様に見守り、声掛け等を行なっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人に合わせた使い方や所持の仕方についてスタッフ間で話し合い支援を行っています。自分で管理されている方もおります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その人に合わせ車椅子を使用したりして、付添いや見守りを行い散歩等へ行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の遠足やドライブ等で出かけたり、家族の方々と一緒に外出、外泊についての連絡や機会をつくる様に支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話があり、自由に掛ける事が可能です。電話を掛けたり、手紙を出す等の支援を行っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は9時から18時で気軽に訪問していただき、居室、食堂、談話コーナー等にて自由に過ごしていただいています。又、事前に連絡があれば、時間外でも訪問できる様に行なっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、資料等を渡し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。もし、行なう場合についての資料、同意書を作成しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギ、外の門扉を開いており、自由に出入り出来る様にしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人に合わせた見守り、付き添いや支援を行ったり、その時の状態、状況に合わせ夜間時の巡回や支援を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等については納戸に置いてある物から少しずつ出して使う様にしています。夜間は洗剤や刃物等、危険と思われる物はカギのかかる所へ閉まっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	地域や施設内の研修会に参加して学ぶように努めています。又、スタッフ間で話し合い、一人一人に応じた対策、対応を行なう様にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に備え応急手当や初期の対応についての研修会や話し合いを行なっています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回防災訓練を行なっています。その際に、避難通路、連絡等についての話し合いを行なっています。毎月消火器の点検を行なっています。	○	本年度7月より渡り廊下にてふる里棟とわが家棟がつながり、消防署の方、立合いにて指導を受けた際の話、防火シャッターの使い方等についての話は全スタッフには話をしているが、本格的な消防、災害訓練等については近いうちに行う予定にしています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族の来所時には必ず近況の状態や出来事について話を行なっています。又、なかなか来所が難しい御家族の方には電話にて話を行なっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変に気づいた時には管理者やホーム長、スタッフ間にて連絡をとり状態を共有し速やかに対応する様にしてしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルを作成し、いつでも見られる様にしてしています。薬が変わった時には連絡帳やスタッフ間での申し送り、声掛けを行い確認する様にしてしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っています。牛乳やヨーグルト、果物を食事やおやつに使ったり、水分補給や、体を動かす様に声掛け等に取り組んでいます。ドクターに相談して下剤を服用している方もいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや洗面所への誘導、準備を行い手渡したり、義歯洗浄のお手伝い等、その方に合わせた支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や食べる量、好き嫌い等に応じた食事の提供を行っています。毎月、体重測定を行い記録しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ、利用者は毎年インフルエンザの予防接種注射を行っています。又、手洗いの徹底、必要に応じてマスクや使い捨て手袋を使用しています。冬季には次亜塩素酸を使い清掃等を行っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器等は乾燥機にて殺菌し、布巾等は毎日ブリーチにて漂白を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季の花を植えたプランターを置いたり、玄関内には飾り物や写真等を飾っています。日中は玄関のカギを開けており自由に出入りができます。スロープはすべり止めになっており手すりも付いてあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の雰囲気気につけ音楽を流したり、花や植物等を置き、気持ちや和らげられる様に工夫を行っています。又、季節を感じるような飾り物をしたり、旬な物を食事に使い季節感を取り入れる様に努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設け、テーブルやイス等を置き、食堂にソファを置き皆が利用でき好きな時に自由に過ごす事が出来る様になっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や布団、電動ベット、好みの物を置いたりして、本人好みに過ごせる様に努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の方々が過ごしやすい様に換気を行い温度、湿度調整を行っています。エアコンを使用する際には温度や吹き出し口をリモコンにて、その都度、調整を行う様にしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂のテーブルやイス等の配置、自室内の整理整頓を行ったり、車椅子を使用している方の移乗やトイレへの介助等については、安全かつ自力で出来る様に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人に合わせ自力で出来る様に見守りや声掛け、付き添い等を行っています。自室が分からなくなってしまう方には、自室前に大きく名前を書いた紙を貼ったりしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周りには花や植物、畑があり、庭や食堂前のテラスにベンチがあり、いつでも外気浴が出来る様にしています。敷地内には観音様があり天気の良い日には、散歩をかねてお参りに行きます。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人、一人の状態や状況に応じた対応、介護技術の向上に精進している。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふるさと
(ユニット名)	わが家
所在地 (県・市町村名)	宮城県 蔵王町
記入者名 (管理者)	芦立 琢磨
記入日	平成 20年 7月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念をスタッフにて話し合い作り上げた物があり、その理念に基づき日々の実践に努めています。また、今年度に入り、現状の理念についての検討を行いました。	○	今後も話し合いの場を設け、意見交換を通し理念について話し合をしていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日常の業務進行状況から理念を理解し声掛けや接し方等について行なっています。	○	併設施設とのスタッフの移動により、全員が理念の共有、実践への取り組みがなされていないと思われる。日常の業務時や申し送り等を通じ、全員が理念を基に日々の実践に取り組める様にしていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	御家族が来訪した時や地域の方、ボランティア等の方々にお会いした時には「ふるさと」の想い等の話を行なう様に努めています。又、他施設の職員や近隣の市町村の民生委員の見学時には、理事長のあいさつの中で話をされています。		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	季節に応じた旬の野菜や果物を頂き、それを行事の時や食事にご利用しています。行事の時等には一緒に参加していただいています。隣の家より毎年、七夕用の竹をいただいています。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	行事等に招待して一緒に過ごしていただいたり、地域の趣味活動をしている方々に紙芝居や踊り、歌等を披露していただいています。今年のお花見会には町の人権保護委員の方々も参加してくれました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で行なわれる行事等に状況を見て参加、協力を行なう様に努めています。又、蔵王町で立ち上げている高齢者虐待防止運営委員会にホーム長が委嘱され、活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価後に改善すべき物には一つ一つ出来る物から取り組んでいます。外部評価の実施によりスタッフの意識も高くなっている。	○	始めるまでに時間がかかってしまう事もあるが、スタッフ全員で取り組む様にしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	立ち上げたばかりだが、今までのサービス等についての報告や意見交換、報告を行いました。	○	今後も報告や話し合い、意見交換を通し、全体の質の向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の地域ケア研修に参加時や電話にて保健福祉課、包括支援センター、社協等と連絡や情報交換を行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり資料を見たりし、必要な方があれば活用出来る様に努めています。19年度にホーム長、管理者共に社会福祉主事の資格を修得している。		大泉会全体での研修会にて権利擁護について行っている。来年度についても行う予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり資料を見たりし、虐待が見過ごされる事がないように努めています。ホーム長は町の高齢者虐待防止運営委員会に委嘱されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には御家族の方と共に利用される方にも説明をして、質問等の対応も行なっています。又、解約についてや、解約後についての相談、支援等を行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との話の中から意見や希望、不満を聞くように心がけています。その様な話が聞けた時には申し送り等にて話し合い対応を行なう様に努めています。	○ アンケートなど実施し、よりよい場所になるように努めたい。また意見箱の設置等も、みんなで考えていきたいと思う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族が来訪した時には近況の状況の話を行なう様にしています。又、その都度、電話にて状況報告や連絡を行なっています。金銭管理についても来訪時に預かり書を見ていただいたり、請求書を送付する際に同封して御渡しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時等に話を行ない、意見や不満、苦情等について聞く様に努めています。又、他機関にても相談や苦情等を受け付けている事について説明をしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日の申し送り、日常の会話の中で意見提案、情報交換を行なう様に努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な勤務交代や要望があったとしても、スタッフの協力を得て確保する様に努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動がある場合には利用者の方に、移動する本人よりあいさつを行なってもらったり、日常の話の中で説明を行なう様に努めています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会や外部の研修会等へ参加し、知識を学ぶ様に努めています。研修後には報告や持ち帰った資料等を見る様にしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連協での研修会や施設見学会に参加し、他GH等とのネットワーク作りを行い、サービスの質の向上に取り組む様に努めています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成に当たり、希望休日を聞いたり、併設施設スタッフと一緒に歓送迎会やスポーツ大会に参加し、ストレス軽減に努めています。	○ 常時、見守りが必要な方もおりスタッフの休憩がとれない時があるので改善していきたいと考えています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフが資格や自分で種々の研修会等に参加したい場合、有休等を配慮して勤務表を作成している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での対応や、利用申込みの際に御本人、御家族の困っている事や不安な事について話をよく聴く様に努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時や利用申込み時、実調等の時にはよく話を行ない、どの様に対応していれば良いかについて話を行なう様にしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、御本人、御家族等がどのような考えでいるのかを聞き、保健福祉課や地域包括支援センター等へ連絡、相談を行ない、どのような対応を行なっていけばよいかを話をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはGHへ何度か来ていただき他利用者の方達と話をさせていただいたり、様子を見ていただいています。又、御本人、御家族、GH側と話を行ない、出来る限り御本人が納得されたうえで入居していただく様にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のあいさつ、利用者の方が一緒に行なってくれたり、手伝ってくれた時には「ありがとうございます」とお礼を述べています。その事により自信を持っていただける様に努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一緒に生活を行なっている上で、その場面で喜怒哀楽を共にして支えあい、関係を築いていける様に努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人と御家族との関係が良い方向へ向かう様に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や馴染みの方に電話、手紙を行なう様に声掛けやお手伝いを行い関係が継続されるように努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の個性や性格を配慮し、利用者同士がより良い関わり合いが出来る様、食堂のテーブルの配置や座る位置、声掛けを行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、継続的な関わりを必要とする方には関係を保つ様に努めています。(利用者のみだけでなく、御家族も含め)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりや話の中より思いや希望を聞き、それを御家族の方が来訪した時等に話を行なう様にしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との関わりや話の中、御家族からの話し、実態調査表等の書類より、今までの暮らし方を基にGHでの生活に役立てられる様にしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の言動、行動、バイタルチェック等に気を配り、現状を総合的に把握する様にしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る事、出来ない事を基に、本人の希望や行ないたい事をおかきわりや話の中から参考にして、スタッフ間で話し合い、作成する様に努めています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の方には時期を見て、御家族の方には来訪時に話を行ない経過や評価に基づき見直しを行い、新たな計画を作成したり、又、退院後等には以前と違う状態にて戻って来た時には、現状に即した計画を作成する様に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録を記入してケアの実践、結果や気づきについてスタッフ間で話し合い、介護計画に活かす様に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な通院時の搬送や入院時に御家族が来られるまでの付き添い等を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方が様子を見に来てくれたり、地域に方々の協力のもとに民謡会やお祭り等に参加させていただいています。出入りしている八百屋さんが花植えを行ってくれる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや併設施設の相談員、ケアマネとも情報交換を行っております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GHを利用している方、される様な方についての情報交換を行っております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族等の希望を大切に、かかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられる様に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	大泉記念病院会長であり社会福祉法人大泉会の理事長・高橋先生と大泉記念病院院長・松本先生が毎週1回ずつ、来所してくれて利用者の健康状態等を診てくれます。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	御家族が遠くの方もおり、万が一の時にはどの様な手順で、家族が迎えにくるまでの事などについて話し合いを行い、文書化していく予定にしています。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必ず名前を呼ぶ時には「さん」をつけています。その時に応じトーンに気を配っています。個人の記録についても、所定の場所に置く様に決めております。個人情報保護の取扱いについての資料も、いつでも閲覧出来る様に職員室に置いてあります。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方々に決定していただける様に分かりやすく説明を行ったり、声掛け行なう様に努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方が生きがいを感じられる様な働きかけを行い、一人一人に合った生活をむかえかれる様に努めています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着衣を選んでいただいたり、クシを手渡し髪を整えていただいたりとその方が出来る事を行なってもらっています。月一回美容師がカットに来てくれて、その方に切ってもらう方、御家族の方が付き添い店に出かける方とそれぞれおります。	○ 月1回の理髪のみなので、外へ行ったり、来ていただいたりして、おしゃれができるような支援を考えていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人出来る事について食事の下準備、配膳、下膳、後片付け等を一緒に行ってもらっています。又、季節の旬な物を使い調理してみんなで同じ物を食べています。スタッフも同じテーブルにて一緒に食べています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコ等については御本人、御家族との相談により、量や本数を決め支援しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄へのサインやパターンを見つけ、トイレへの声掛け、誘導、交換等一人一人に合わせた支援を行う様に努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めて行っています。入浴前にはバイタルチェックを行い身体状況を見て、声掛けを行い本人に決めていただいています。その方に合わせスタッフ2名介助で入浴される方もおります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の状況に応じた休息の時間帯を設けたり、夜間時の安眠が取れる様に、日中の活動を行なっていただくように努めています。不眠の訴えがある時には、ドクターに相談する様にもしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望や出来る事については行なっていたが、その方に合った役割や楽しみ事を行なっていた様に見守り、声掛け等を行なっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人に合わせた使い方や所持の仕方についてスタッフ間で話し合い支援を行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日、その人に合わせ車椅子を使用したり、散歩コースを変えたり併設施設へ行き、施設のスタッフや利用者の方々と話をする等の支援を行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の遠足やドライブ等で出かけたり、家族の方々と一緒に外出、外泊についての連絡や機会をつくる様に支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話があり、自由に掛ける事が可能です。電話を掛けたり、手紙を出す等の支援を行っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は9時から18時で気軽に訪問していただき、居室、食堂、談話コーナー等にて自由に過ごしていただいています。又、事前に連絡があれば、時間外でも訪問できる様に行なっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、資料等を渡し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。もし、行なう場合についての資料、同意書を作成しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギ、外の門扉を開いており、自由に出入り出来る様にしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人に合わせた見守り、付き添いや支援を行ったり、その時の状態、状況に合わせ夜間時の巡回や支援を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等については納戸に置いてある物から少しずつ出して使う様にしています。夜間は洗剤や刃物等、危険と思われる物はカギのかかる所へしまっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	地域や施設内の研修会に参加して学ぶように努めています。又、スタッフ間で話し合い、一人一人に応じた対策、対応を行なう様にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に備え応急手当や初期の対応についての研修会や話し合いを行なっています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回防災訓練を行なっています。その際に、避難通路、連絡等についての話し合いを行なっています。毎月消火器の点検を行なっています。	○	本年度7月より渡り廊下にてふる里棟とわが家棟がつながり、消防署の方、立合いにて指導を受けた際の話、防火シャッターの使い方等についての話は全スタッフには話をしているが、本格的な消防、災害訓練等については近いうちに行う予定にしています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族の来所時には必ず近況の状態や出来事について話を行なっています。又、なかなか来所が難しい御家族の方には電話にて話を行なっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変に気づいた時には管理者やホーム長、スタッフ間にて連絡をとり状態を共有し速やかに対応する様に行なっています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルを作成し、いつでも見られる様にしています。薬が変わった時には連絡帳やスタッフ間での申し送り、声掛けを行い確認する様にしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行なっています。牛乳やヨーグルト、果物を食事やおやつに使ったり、水分補給や、体を動かす様に声掛け等に取り組んでいます。ドクターに相談して下剤を服用している方もいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや洗面所への誘導、準備を行い手渡したり、義歯洗浄のお手伝い等、その方に合わせた支援を行なっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や食べる量、好き嫌い等に応じた食事の提供を行っています。毎月、体重測定を行い記録しています。	○	その方にあった量やカロリー等の見直しや、利用者の希望する食品(献立)を取り入れていくようにしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ、利用者は毎年インフルエンザの予防接種注射を行っています。又、手洗いの徹底、必要に応じてマスクや使い捨て手袋を使用しています。冬季には次亜塩素酸を使い清掃等を行っています。毎日、食事、おやつ等の前には手の消毒を行なっています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器等は乾燥機にて殺菌し、布巾等は毎日ブリーチにて漂白を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季の花を植えたプランターを置いたり、玄関内には飾り物や写真等を飾っています。日中は玄関のカギを開けており自由に出入りができます。スロープはすべり止めになっており手すりも付いてあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の雰囲気や気をつけ音楽を流したり、花や植物等を置き、気持ちや和らげられる様に工夫を行っています。又、季節を感じるような飾り物をしたり、旬な物を食事に使い季節感を取り入れる様に努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設け、テーブルやソファ、イス等を置き、好きな時に自由に過ごす事が出来る様になっています。食堂のテラスにもベンチを置き過ごせる様になっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人により持ち込んでいる物は多用だが、使い慣れた物や好みの物を置き、本人好みに過ごせる様に努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の方々が過ごしやすい様に換気を行い温度、湿度調整を行っています。エアコンを使用する際には温度や吹き出し口をリモコンにて、その都度、調整を行う様にしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂のテーブルやイス等の配置、自室内の整理整頓を行ったり、車椅子を使用している方の移乗やトイレへの介助等については、安全かつ自力で出来る様に努めています。車椅子を自力で操作される方が、通りやすくする為、廊下のドアを外しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人に合わせ自力で出来る様に見守りや声掛け、付き添い等を行っています。自室が分からなくなってしまう方には、自室前に大きく名前を書いた紙を貼ったりしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周りには花や植物、畑があり、庭や食堂前のテラスにベンチがあり、いつでも外気浴が出来る様にしています。敷地内には観音様があり天気の良い日には、散歩をかねてお参りに行きます。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)